

東洋学論叢

川崎 信定 教授退任記念号

ほとけの知恵と力と、そして温もりを……

——最終講義 東洋大学を去るに当たって——

川崎 信定 (23)

縁起と共生——仏教の視点から

竹村 牧男 (47)

『ガンゴットリ—国縁起譚』第一章和訳

沼田 一郎 (130)

元曉の著作の成立時期について

伊吹 敦 (150)

カビール『ビージャク』和訳余滴(4)

橋本 泰元 (164)

——ワサント——

vajra考

渡辺 章悟 (180)

『マツヤ・プラーナ』所収の

「ヴァーラーナスイーマーハートミヤ」について

宮本 久義 (200)

東洋大学文学部紀要第59集

インド哲学科篇

XXXI



川崎 信定 教授 最終講義にて

川崎信定 教授略歴・業績目録

略歴

- 昭和一〇年一二月 千葉県で生まれる
- 昭和二九年 三月 東京大学教育学部付属高等学校卒業
- 昭和三三年 三月 東京大学教養学部教養学科（アメリカ分科）卒業
- 昭和三六年 三月 東京大学大学院人文科学研究所印度哲学専門課程修士課程修了
- 昭和三九年 三月 同 博士課程 単位取得退学
- 昭和三九年 四月 財団法人 東洋文庫 研究生（チベット仏教学・九月まで）
- 昭和三九年一〇月 東京大学文学部助手（印度哲学）就任（昭和四四年六月まで）
- 昭和四一年 九月 ニューヨーク州立大学（バッファロー校）フルブライト交換教授（アジア思想担当・昭和四二年八月まで）
- 昭和四二年 九月 コロムビア大学 中近東言語文化研究科研究員（サンスクリット語学／仏教学・昭和四五年五月まで）
- 昭和四五年 六月 財団法人東洋文庫専任研究員（チベット仏教学・昭和五〇年四月まで）
- 昭和四六年 四月 大正大学非常勤講師（英語担当・昭和五二年三月まで）

- 昭和四七年 四月 東京大学文学部・大学院人文科学研究科 非常勤講師（チベット仏教文献講読・昭和四八年三月まで）
- 昭和四七年 四月 国学院大学文学部非常勤講師（サンスクリット語・昭和五〇年三月まで）
- 昭和四八年 四月 お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師（東洋倫理思想史・平成七年三月まで、隔年開講）
- 昭和四九年 四月 武蔵大学日本文化研究科非常勤講師（インド思想史・昭和五〇年三月まで）
- 昭和五〇年 五月 筑波大学 哲学・思想学系（宗教学・比較思想学）助教授
- 昭和五六年 四月 大学入試センター助教授（併任）、同専門委員・部会責任者（倫理・社会 昭和五八年三月まで）
- 昭和六一年 七月 筑波大学 哲学・思想学系（宗教学・比較思想学）教授
- 昭和六二年 一月 東京大学大学院人文科学研究科 文学博士 学位取得
- 昭和六三年 四月 東京大学文学部・大学院人文科学研究科非常勤講師（チベット仏教文献講読・平成六年三月まで）
- 平成 四年 四月 筑波大学大学院日本文化研究学際カリキュラム委員長（平成五年三月まで）
- 平成 四年 四月 放送大学客員教授（インドの思想・平成九年三月まで）
- 平成 五年 四月 筑波大学大学院 哲学・思想研究科長（平成六年三月まで）
- 平成 五年 四月 北海道大学 文学部非常勤講師（チベット語・平成六年三月まで）
- 平成 六年 六月 筑波大学 哲学・思想学系長・筑波大学評議員（平成八年四月まで）
- 平成 六年 一月 学術審議会専門委員（科学研究費分科会）併任（平成七年一月まで）
- 平成 七年 四月 東京成徳大学人文学部非常勤講師（比較宗教論・平成九年三月まで）

- 平成 七年一〇月 お茶の水女子大学大学院人間科学研究科客員教授（平成八年三月まで）
- 平成 七年 四月 連合王国オックスフォード大学東洋学研究所招聘教授（仏教伝道協会沼田基金提供講座・同年七月まで）
- 平成 八年 四月 東北大学文学部・大学院文学研究科（インド仏教史特論・平成九年三月まで）
- 平成 九年 三月 筑波大学教授退任
- 平成 九年 四月 筑波大学名誉教授（現在に至る）
- 平成 九年 四月 東洋大学文学部印度哲学科教授（現在に至る）
- 平成 九年 四月 東洋大学国際交流センター所員（平成一〇年三月まで）
- 平成一二年 四月 東洋大学東洋学研究所長（平成一四年三月まで）
- 平成一四年 四月 東洋大学文学部印度哲学科Ⅱ部主任（平成一五年三月まで）
- 平成一四年 四月 早稲田大学 文学部 東洋哲学科 非常勤講師（インド思想史・平成一七年三月まで）
- 平成一四年 四月 早稲田大学大学院文学研究科非常勤講師（東洋哲学特殊問題・平成一七年三月まで）
- 平成一四年 四月 放送大学大学院文化科学研究科客員教員（平成一六年三月まで）
- 平成一六年 四月 東洋大学大学院文学研究科・仏教学専攻主任（平成一七年三月まで）
- 平成一四年 四月 東洋大学学術研究センター研究助成審議会委員（現在に至る）
- 平成一四年 四月 （財）井上円了記念学術研究センター運営委員（現在に至る）
- 平成一六年 四月 大正大学大学院仏教学研究科非常勤講師（仏教学特論 平成一八年三月まで）

学会および社会における活動

- 昭和四五年 六月 財団法人 東方研究会 兼任研究員（現在に至る）
- 昭和五〇年 五月 財団法人 東洋文庫兼任研究員（チベット仏教研究・現在に至る）
- 昭和五五年 四月 日本西蔵学会委員（現在に至る）
- 昭和六一年 四月 日本印度学仏教学会理事（平成九年三月まで）
- 昭和六一年 四月 比較思想学会評議員（現在に至る）
- 昭和六二年 四月 仏教思想学会理事・評議員（現在に至る）
- 平成 元年 四月 財団法人東方研究会理事・評議員（現在に至る）
- 平成 三年 四月 財団法人東方学会評議員（現在に至る）
- 平成 三年 四月 東京大学仏教青年会評議員（現在に至る）
- 平成 四年 四月 日本宗教学会理事（現在に至る）
- 平成 四年 四月 筑波大学 哲学・思想学会 評議員（平成八年三月まで）
- 平成 五年 九月 財団法人 国際仏教交流センター 評議員（現在に至る）
- 平成 九年 四月 日本印度学仏教学会評議員（現在に至る）
- 平成一二年 六月 財団法人 仏教学術振興会評議員（現在に至る）
- 昭和三九年 四月 日本倫理学会 会員（現在に至る）
- 昭和五四年 九月 日本思想史学会会員（現在に至る）
- 国際仏教学会 (The International Association of Buddhist Studies) 会員

国際サンスクリット学会 (The World Sanskrit Conference) 会員

国際チベット学会 (The International Association of Tibetan Studies) 会員

真言宗豊山派 勸学・権大僧正 本山特派布教師 総本山長谷寺菩提院結衆

賞罰

昭和五〇年 五月 日本印度学仏教学会賞 (日本印度学仏教学会)

昭和五五年十一月 東方学術奨励賞 (財団法人東方研究会・インド大使館)

平成 六年 六月 第八四回 日本学士院賞 (日本学士院)

平成 六年 十一月 船橋市市政功勞者 (千葉県船橋市)

平成 八年 一〇月 第三四回密教学芸賞 (真言宗各派総本山会)

平成 一五年 九月 教学功勞賞 (真言宗豊山派教学振興会)

著書 (单著)

(1) 『原典訳チベットの死者の書』(こころの本) (筑摩書房、平成元年五月二十五日) 総数二二四頁。

(2) 『一切智思想の研究』(春秋社、平成四(一九九二)年二月二十日)、総数五六二頁 (文部省平成三年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費交付による出版」(第八四回日本学士院賞受賞対象研究)。

(3) 『インドの思想』(放送大学教材91344-9311) (財団法人放送大学教育振興会、平成五(一九九三)年三月二十日)、
総数一五四頁。

- (4) 『原典訳 チベットの死者の書』(ちくま学芸文庫)、(筑摩書房、平成五(一九九三)年六月)、総数二四四頁。
- (6) 『CD版 原典訳チベットの死者の書』(筑摩書房、平成六(一九九四)年四月)、CDディスク二枚ならびに解説本四七頁。
- (7) 『釈尊のおしえ』(中山書房仏書林、平成九(一九九七)年十月二五日刊) 総頁数一二四頁。
- (8) 『釈尊のおしえ』改訂第二版(中山書房仏書林、平成十(一九九八)年十月二五日刊) 総頁数一二四頁。

編者(共編)

- (1) 『中村元の世界』峰島旭雄・前田専学・川崎信定他 共著(青土社、昭和六十(一九八五)年三月)、総数三八六頁。
 - (2) 『東洋の自然観と生命観——仏教を中心として——』(共著)(筑波大学平成六〇八年度学内プロジェクト研究助成研究(A) 研究報告書 研究代表者・川崎信定(平成九(一九九七)年三月)、一〇〇頁。
 - (3) 『インド哲学・仏教学への誘い』(共同編集)(菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会(伊吹敦、川崎信定、竹村牧男、沼田一郎、橋本泰元、森章司、渡辺章悟)編、大東出版社、平成十七(二〇〇五)年三月十日刊) 総頁三二七頁。
- 研究論文(单著)
- (1) 『Tathasamgrahaに引用されたSarvaśāstra批判説の考察』、『印度学仏教学研究』第十一卷第二号(日本印度学仏教学会、昭和三八(一九六三)年三月)、五四八〜五四九頁。
 - (2) 「チベット仏教の展開」、『東洋学術研究』第十二卷第一号(東洋哲学研究所、昭和四八(一九七三)年五月)、五五〜六九頁。

- (3) 「チベット文献について」、『東書 高校通信（世界史）』第二十三号（東京書籍、昭和四八（一九七三）年十月）、五～六頁。
- (4) 「バヴィヤの伝えるミーマンサー説」、『中村元博士還暦記念論集（インド思想と仏教）』（春秋社、昭和四八（一九七三）年一月）、七一～八六頁。
- (5) ‘Quotations in the Mimamsā Chapter of Bhavya’s *Mahyamaka-hrdya-kārika*’, 『印度学仏教学研究』第二十三卷第二号（日本印度学仏教学会、昭和四九（一九七四）年三月）、一一二〇～一一二七頁。
- (6) ‘Bibliographical Notes about British Historical Writings on India in the Era of British Rule’, *The Journal of Intercultural Studies*, No.2 (Intercultural Research Institute, 関西外国語大学、昭和四九（一九七四）年三月）、七六～七八頁。
- (7) ‘A Reference to Maga in the Tibetan Translation of the ‘Tarkajyala’, 『印度学仏教究』第二三卷第二号（日本印度学仏教学会、昭和五十（一九七五）年三月）、一～七頁。
- (8) 「貪欲にもとづくタントラ分類」、『宗教研究』第四九卷第三号（日本宗教学会、昭和五十（一九七五）年三月）、九四～九五頁。
- (9) ‘Warren Hastings and Trans-Himalayan Trade: Significance of Bogle’s Mission to Tibet, 1774-75’, *The Journal of Intercultural Studies*, No.2 (Intercultural Research Institute, 関西外国語大学、昭和五十（一九七五）年三月）、五七～六七頁。
- (10) 「密教における愛」、中村元編『仏教思想一〈愛〉』（平楽寺書店、昭和五十（一九七五）年六月）、一五五～一八二頁。

- (11) 「法を知る人は存在するか—*Tattvasaṃgraha*における仏教・ミーマンサー論争—」、『平川彰博士還暦記念論集（仏教における法の研究）』（春秋社、昭和五十（一九七五）年十月）、二六七〜二八九頁。
- (12) “Analysis of Yoga in the *Samdhinimocana-sūtra*”, 『豊山学報』第二十一号、（昭和五一（一九七六）年三月）、一五五〜一七〇頁。
- (13) “The Concept of the Subtle Body (*linga-sarira*) in Brahmanism”, 『筑波大学哲学・思想学系 論集』昭和五〇年度（筑波大学哲学・思想学系、昭和五一（一九七六）年三月）、一〜十四頁。
- (14) 「研究ノート『チベットの死者の書』—死の瞬間を起点としてみた生—」、『倫理思想研究』第一号（筑波大学倫理学研究会、昭和五一（一九七六）年三月）、九七〜九八頁。
- (15) 「『チベットの死者の書』—死後の生存としてみた意識の遍歴—」、『エビステマー』七月号（朝日出版社、昭和五一（一九七六）年七月）、一〇三〜一三四頁。
- (16) “The *Mīmāṃsā* Chapter of Bhavya’s *Mahāyama-ka-hṛdaya-karika*—Text and Translation— (1)”, 『筑波大学哲学・思想学系 論集』、昭和五一年度（筑波大学 哲学・思想学系、昭和五二（一九七七）年三月）、一〜一六頁。
- (17) 「唯識思想研究の現況」、『統豊山全書刊行会 月報』（統豊山全書刊行会、昭和五二（一九七七）年五月）、一〜四頁。
- (18) “Indian Buddhism”, *Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect (1963-1972)*, Part II-22 (The Centre for East Asian Cultural Studies, the Toyo Bunko, 昭和五二（一九七七）年十月）、一〜二六頁。
- (19) 「チベットにおける成仏の理解—仏伝十二相をめぐって—」、『玉城康四郎博士還暦記念論集（仏の研究）』（春秋社、昭和五二（一九七七）年十一月）、二六九〜二八四頁。

- (20) 「密教と恩の思想」、中村元編『仏教思想四 恩』（平楽寺書店、昭和五四（一九七九）年一月）、二九七～三二〇頁。
- (21) 「死後の存在と意識の遍歴——『チベットの死者の書』を考える——」、「仏教文化』第十卷（通巻第三号）《特集…アジア仏教をさぐる》（東京大学仏教青年会、昭和五五（一九八〇）年十二月）、四七～六三頁。
- (22) 「一切智と一切智智」『密教研究』第十三号（密教学会、昭和五六（一九八一）年三月）、一～一四頁。
- (23) 「一切智 (sarvajñā) 思想の展開」、「勝又俊教博士古稀記念論集《大乘仏教から密教へ》」（春秋社、昭和五六（一九八一）年九月）、一九九～二二七頁。
- (24) 『十住毘婆沙論』の難一切智人」、壬生台舜編『龍樹教学の研究』（大蔵出版社、昭和五八（一九八三）年二月）、一八五～一九九頁。
- (25) 「エヴァンズ・ヴェンツ訳出のチベット文原典について、湯浅泰雄／黒木幹男編訳『東洋的瞑想の心理学』（ユング心理学選書五）（大阪創元社、昭和五八（一九八三）年十一月）、四五～六一頁。
- (26) 「中村元の世界（大乘仏教研究）」、『アーガマ』第四五号（平河出版社、昭和五九（一九八四）年三月）、五〇～七一頁。
- (27) 「仏教論理学」、平川彰編『仏教研究入門』（大蔵出版社、昭和五九（一九八四）年六月）、一二二～一三三頁。
- (28) 「一切智者の存在論証」、平川彰・高崎直道・梶山雄一編『講座・大乘仏教九 認識論と論理学』（春秋社、昭和五九（一九八四）年七月）、二九四～三三九頁。
- (29) 「肉食とBhāvavivēka」、『東方』第一号（財団法人東方研究会、昭和六〇（一九八五）年四月）、一七四～一八四頁。

- (30) 「諸法実相を基盤とした一切智・一切種智」、『平川彰博士古稀記念論集〈仏教思想の諸問題〉』（春秋社、昭和六〇（一九八五）年六月）、三五三～三七二頁。
- (31) 「大乘仏教とチベット」、平川彰・高崎直道・梶山雄一編『講座・大乘仏教十 大乘仏教とその周辺』（春秋社、昭和六〇（一九八五）年八月）、九九～一二六頁。
- (32) 『中観心論』にみられる一切智 (Garvāna)」、『印度学仏教学研究』第三四卷第一号（日本印度学仏教学会、昭和六〇（一九八五）年十月）、一六〇～一六七頁。
- (33) 「パリー文献にみられる一切智 (Sabhanū)」、『雲井昭善博士古稀記念論集〈仏教と異宗教〉』（平楽寺書店、昭和六一（一九八六）年二月）、一八四～二〇三頁。
- (34) 「仏典のことば」、林四郎編『ことばの林』（応用言語学講座 第六卷）（明治書院、昭和六一（一九八六）年二月）四四～五七頁。
- (35) 「バヴィヤ造『中観心論』・『思摂炎』第九章・第十章研究——一切智思想に関連して——」、『筑波大学哲学・思想学系 論集』第十一号（筑波大学哲学・思想学系、昭和六一（一九八六）年三月）、一～二六頁。
- (36) 「近藤重蔵の『喇嘛考』」、『東洋文庫書報』昭和六十年年度（財団法人東洋文庫、昭和六一（一九八六）年三月）、十二～十四頁。
- (37) “A Study on the Lama (喇嘛考) by Seisai Morishige Kondo Juzo (1771-1829)” 山口瑞鳳監修『チベットの仏教と社会』（春秋社、昭和六一（一九八六）年十一月）、六八三～六九六頁。
- (38) 「Blavatskyaの生類観——草木にいのちがあるか——」、『豊山教学大会紀要』第十四号（豊山教学振興会、昭和六一（一九八六）年六月）、二〇四～二一八頁。

- (39) 「インド・仏教思想における《楽》」、『比較思想研究』第十三号（比較思想学会、昭和六二（一九八七）年三月）、一三〇～一二二頁。
- (40) “The Mimāṃsā Chapter of Bhavya’s *Madhyamaka-hṛdaya-kārikā* — the Sanskrit and the Tibetan Texts — (2) *Uttara-pakṣa*”, 『筑波大学哲学・思想学系論集』第十二号（筑波大学 哲学・思想学系、昭和六二（一九八七）年三月）、一〇二～一二三頁。
- (41) 「バヴィヤの『中観心論』にみられる一切智説（一）」、『仏教学』（仏教思想学会、昭和六三（一九八八）年三月）、一～二〇頁。
- (42) “The Mimāṃsā Chapter of Bhavya’s *Madhyamaka-hṛdaya-kārikā* — the Sanskrit and the Tibetan Texts — (3) with the *Sarvajña Chapter*”, 『筑波大学哲学・思想学系論集』第十三号（筑波大学哲学・思想学系、昭和六三（一九八八）年三月）、一〇四～一二二頁。
- (43) 「東洋古代の生命受容——仏教思想を中心に——」、『日本倫理学会論集』第二四号（日本倫理学会、平成元（一九八九）年十月十日）、一九〇～三四頁。
- (44) 『チベットの死者の書』の世界」、『季刊 仏教』第十一号（浄土特集）（平成二（一九九〇）年四月）、一一一～一二二頁。
- (45) 「死後の世界へのガイドブック——チベットの死者の書』甦える——」、『月刊サンサーラ』（徳間書店、平成二（一九九〇）年五月）、二二八～二二六頁。
- (46) 「仏典はどのようにつくられたか」、『仏教』別冊三（仏教入門）（法蔵館、平成二（一九九〇）年六月）、五三～五七頁。

- (47) 「第一回ラモット学会に出席して」、『東方學』第八十輯（東方学会、平成二（一九九〇）年七月）、一五一～一五六頁。
- (48) “Discrepancies in the Sanskrit and Tibetan Texts of Bhavya’s *Mahyamaka-hyaya-Tarkajatala* (the IXth and the Xth Chapters)”, in *the Proceedings of the 5th Seminar of the International Association of Tibetan Studies*, (Narita, 1991), pp.131-143.
- (49) 『チベットの死者の書（バルドウ・トエ・ドル）をめぐって』、朝日新聞社編『曼荼羅ルネッサンス——二十一世紀を開くコスミックパワー』（朝日新聞社、平成三（一九九二）年三月）、一〇二～一三〇頁。
- (50) 「仏典から見た人間とその生き方——『チベットの死者の書（バルドウ・トエ・ドル）』の現代人にとっての意味——」、鈴木博雄編『人間の生き方の探求——近代から現代へ——』（図書文化社、平成三年五月）、一四六～一五二頁。
- (51) 「DAM SARVAM (の一切)を知るもの——アートマンを知るものとの関係——」、『前田専学博士還暦記念インド学仏教学論集〈我〉の思想』（春秋社、平成三（一九九二）年十月）、五～一六頁。
- (52) “Principle of Life according to Bhavya”, in Ram Karan Sharma ed.: *Researches in Indian and Buddhist Philosophy: Essays in Honour of Professor Alex Wayman* (Delhi, 1993), pp.69-81.
- (53) 「一切智の思想研究について——人間の知とそれを超えるもの——」、『学術月報』Vol.48, No.1「学問の動向」（日本学術振興会、平成七（一九九五）年一月）、六～一二頁。
- (54) 「河口慧海師と『チベットの死者の書』」、『河口慧海の世界』（河口慧海五十回忌講演会、大正大学豊島区教育委員会、平成六（一九九四）年十一月三日、平成七（一九九五）年三月刊行）、二〇～二九頁。

- (55) 「一切智の思想研究について（報告）」、『東方』第十一号（財団法人 東方研究会設立 東方学院、平成七（一九九五）年十二月）、一八三～一九二頁。
- (56) 「人間の知とそれを超えるもの——一切智を通して考える——」、『豊山教学大会紀要』第二三号（豊山教学振興会、平成七（一九九五）年十二月）、一～二四頁。
- (57) 「チベットの仏教と東アジア——その交渉関係を近藤重蔵著『喇嘛考』を通じて考える」、『シリーズ・東アジア仏教』第一巻「東アジア仏教とは何か」（春秋社、平成七（一九九五）年四月）、二八九～三一六頁。
- (58) “The Buddhist Concept of an Omniscient Being — History of the Sarvajña Study and its Significance”, 『哲学・思想論集』第二二号（筑波大学哲学・思想学系、平成九（一九九七）年三月三十一日）一～一八頁。
- (59) 「一切智から薩婆若への展開」、松長有慶編著『インド密教の形成と展開』（法蔵館、平成十（一九九八）年七月二二日刊）所収、八七～一〇二頁。
- (60) 『チベットの死者の書』と輪廻転生」、大法輪閣編集部編『輪廻転生——生まれ変わりはあるか——』（大法輪閣、平成十（一九九八）年十一月二日刊）所収、六三～七七頁。
- (61) 「仏教における心の教育」、尾田幸雄・尾田綾子編『生涯学習社会における心の教育』（『心の教育実践講座』全十巻中）第五巻（日本図書センター、平成十一（一九九九）年九月十五日）、一四八～一五七頁。
- (62) 「仏教における智慧」、吉田宏哲編『仏・智慧と教え』大正大学オープンカレッジ夏期公開講座（緑陰講座 第四回）（青史出版、平成十二（二〇〇〇）年三月三十一日）、一一一～一四五頁。
- (63) 「仏とは——大乘仏教の考え方——」、『大法輪』七月号（大法輪閣、平成十二（二〇〇〇）年七月一日）、七〇～七三頁。

- (64) 「チベット研究の状況と可能性」、『東方学』第百号（東方学会、平成十二（二〇〇〇）年九月三日）、一四六～一六二頁。
- (65) 「善巧方便と智慧」、『加藤純章博士還暦記念論集・アビダルマ仏教とインド思想』（春秋社、平成十二（二〇〇〇）年十月三日）、二三七～二五〇頁。
- (66) 「仏とは」（単著）、大法輪閣編集部編『仏教思想を読む―仏教の基本を知るために―』所収（大法輪閣、平成十三（二〇〇二）年九月十日刊）、八～一四頁。
- (67) 「チベットの死者の書」と日本の四十九日法要」、『仏教講演会記録集』（伊勢崎・佐波仏教会、平成十三（二〇〇二）年十二月十五日刊）、一～三六頁。
- (68) 「チベット大藏経諸版成立史研究序説（資料翻訳篇）」、『東洋大学文学部紀要』第五四集印度哲学科篇二六『東洋学論叢』田村晃祐教授退任記念号（平成十三（二〇〇二）年三月三〇日）、七一～九五頁。
- (69) 「バルドウ（中有）を設定する意味―『チベットの死者の書』を通して考える―」、『平和と宗教』（人はなぜ、何のために生まれてくるのか？）第二十号所収（財団法人庭野平和財団平和研究レポート、平成十三（二〇〇二）年十二月十日刊）、二〇～三五頁。
- (70) 『般若心経』以前・以後」、『平成十二年度真言宗教学大会・第三二六回高野山安居会講義録』所収（高野山真言宗教学部、平成十四（二〇〇二）年二月二二日刊）、二四三～三二八頁。
- (71) 「チベット語訳仏典成立過程の考察―『中観心論』第九章・第十章梵本・藏訳テキスト対照研究―」、『東洋学論叢』―清水乞教授退任記念号―（東洋大学文学部研究紀要、印度哲学科篇）第五六号（平成十五（二〇〇三）年三月三〇日刊行）、三一～四二頁。

- (72) 「パウイヤの自然観」、『日本仏教学会年報（仏教と自然）』第六八号所収、（日本仏教学会、平成十五（二〇〇三年九月）、一五～三〇頁）。
- (73) 「チベット仏教」、「チベット訳大藏経」、「チベット語」、「インド哲学・仏教学への誘い」（菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会〔伊吹敦、川崎信定、竹村牧男、沼田一郎、橋本泰元、森章司、渡辺章悟〕編、大東出版社、平成十七（二〇〇五）年三月十日刊）、一八二～一九〇、二八六～二九二、三二一～三二七頁。
- (74) 「比較思想 ― はじめての人のための中村学入門―」、『(KAWADE 道の手帖) 中村元・仏教の教え 人生の知恵』（河出書房新社、平成十七（二〇〇五）年九月三〇日刊）、八六～九一頁。
- (75) 「ほとけの知恵と力と、そして・・・（東洋大学を去るにあたって、最終講義）」、『東洋学論叢』第三十号（東洋大学文学部紀要インド哲学科篇）平成十八（二〇〇六）年三月三一日）、一三三～四六頁。

翻訳

- (1) R.H.Basler: 『アメリカ史学における新傾向と読者』、『アメリカーナ』第三卷第七号 (USIS, 昭和三二(一九五七年七月)、八二～九四頁)。
- (2) アンネマリエ・フォン・ガベイン: 「于闇から雲岡に至る間の仏教美術に見られるヘレニズムの諸要素」、『財団法人東洋文庫年報』昭和三八年度（昭和三八（一九六四）年十二月）、四二～六二頁。
- (3) T.V. Wylie: 「チベット史」、『ブリタニカ国際大百科事典』第十二巻、（昭和四九（一九七四）年四月）、七七八～七八九頁。
- (4) P.T.Raju: 「インド思想における人間観」、S・ラダクリシュナン・T・ラジュ編著、勝部真長・廣瀬京一郎編訳：-

『世界の人間論（二） 八大思想にみる人間』（学陽書房、昭和五三（一九七八）年六月）、一四一～二四二頁。

書評

- (1) 「レッシング・ウエイマン《ケエトプジエ・仏教タントラ概説》」、「東洋学報』第五四卷第三号（東洋学術協会、昭和四六（一九七一）年十二月）、一二四～一二七頁。
 - (2) Yoshino Hakeda: *Kukai, Eastern Buddhist*, New Series Vol. VII, No.2, (October 1974), pp.129-132.
 - (3) Madeleine Biardeau: *Théorie de la Connaissance et Philosophie de la Parole dans le Brahmanisme Classique*, *The Journal of Intercultural Studies*, No.1 (Intercultural Research Institute, 関西外国語大学、昭和四九（一九七四）年三月）四三～四六頁。
 - (4) Alex Wayman: *The Buddhist Tantra: Light on Indo-Tibetan Esotericism* (1973), 『印度学仏教学研究』第二三卷第二号（日本印度学仏教学会、昭和五〇（一九七五）年三月）九五六～九五九頁。
- シンポジウム・パネリスト
- (1) 「シンポジウム・光明とは何か——思想と実践の接点を求めて——」、「豊山教学大会紀要』第七号（豊山教学振興会、昭和五四（一九七九）年十月）、一〇〇～一二五頁。
 - (2) 「チベット仏教にみる終末観」、日本学術会議第三回哲学系シンポジウム『終末観』（平成五（一九九三）年十月二六日） 提題者発言。
 - (3) 「臨死体験と『チベットの死者の書』」、「シンポジウム・臨死体験』（人体科学会 第四回大会、筑波大学、平

成六（一九九四）年十一月二七日）提題者発言担当

- (4) 「学問の思い出——中村元博士を囲んで——」、「東方學」第九〇輯（東方學會、平成七（一九九五）年七月三一日）、一六八〜一九八頁。

辞典項目執筆

- (1) 「チベットの仏教」、小野泰博他編『日本宗教事典』（弘文堂、昭和六〇（一九八五）年二月）、二二八〜二三三頁。
- (2) 「サンスクリット語の手引き〈付〉原語表記について」中村元編『岩波仏教辞典』（岩波書店、平成元（一九八九）年十二月）、八八〇〜八八三頁。
- (3) 「種子」、(辞典項目執筆)『日本仏教史辞典』（吉川弘文館、平成十一（一九九九）年十一月刊）。
- (4) 「快樂と禁欲」、「生と死」「仏教」、「楽」、中村元監修、峰島旭雄責任編集…『比較思想事典』（東京書籍、平成十二（二〇〇〇）年八月二五日）、六八〜七〇頁、三一三〜三一四頁、五三八〜五三九頁。
- (5) 「唯識」、「サンガ」、「上座部仏教」、「大乘仏教」、「大藏経」、「パーリ語」、「仏教」、「密教」、「結集」、「ジャータカ」、「ブツダ」、「千仏洞」、「世界史小辞典」（改訂新版）所収、(山川出版社、平成十六（二〇〇四）年一月二二日）、一〇六三頁。
- (6) 「仏教」…「死生観」、改訂新版『生命倫理事典』（太陽出版、平成十八（二〇〇六）年三月刊行予定）所収。

その他

- (1) 「自分の中の餓鬼」、『名古屋成田山〈教苑〉』第二七八号（成田山名古屋別院、昭和五二（一九七七）年六月二五日）、一頁。
- (2) 「仏教と恩の思想」、『浅草寺仏教文化講座』第二四集（浅草寺教化部、昭和五五（一九八〇）年度）、二〇三〜二一五頁。
- (3) 「死んだらどこへ行くか―『チベットの死者の書』について―」、『柴又』第八四号（帝釈天題経寺、昭和六三（一九八八）年四月）、一八〜二六頁。
- (4) 「菩薩のねがい」、『長谷春秋』第三号（総本山長谷寺、昭和六三（一九八八）年八月）、一七二〜一九三頁。
- (5) 「布教」「釈尊の教え 第一回」マールンクヤプッターあの世についてお釈迦さまに質問した青年」、『護国寺』第四三号（護国寺、平成二（一九九〇）年七月）、二〜五頁。
- (6) 「布教」「釈尊の教え 第二回」心のともしびを点じてくれた仏」、『護国寺』第四四号（護国寺、平成三（一九九二）年一月）、二〜五頁。
- (7) 「布教」「釈尊の教え 第三回」なぜ法事をするのか？ キサーゴータミー」、『護国寺』第四五号（護国寺、平成三（一九九二）年七月）、二〜五頁。
- (8) 「布教」「釈尊の教え 第四回」ブツダと超能力―スナクシャトラ―おシャカさまに超能力の示現をせがんだ弟子―」、『護国寺』第四六号（護国寺、平成四（一九九二）年二月）、二〜六頁。
- (9) 「布教」「釈尊の教え 第五回」自分の中の餓鬼―アングリマール 千本の指で首飾りを作ろうとした青年―」、『護国寺』第四七号（護国寺、平成四（一九九二）年七月）、二〜六頁。

- (10) 〈布教〉「『釈尊の教え 第六回』お経は何故わかりにくいのか?—きれいな言葉にお経を直そうとして叱られたヤメールとテークラ兄弟—」、『護国寺』第四八号(護国寺、平成五(一九九三)年一月)、二〇五頁。
- (11) 〈布教〉「『仮』という大切な立場」、『孝道新聞』(宗教法人 孝道教団、平成五(一九九三)年一月)、一頁。
- (12) 〈布教〉「『釈尊の教え 第七回』モツガラナ—お盆になぜお先祖さまをお祀りするの?」、『護国寺』第四九号(護国寺、平成五(一九九三)年七月)、二〇五頁。
- (13) 〈随想〉「『言葉と人』塩を撒かれる」、『国語通信』第六号(筑摩書房、平成五(一九九三)年十二月二五日) 巻頭言。
- (14) 〈布教〉「『釈尊の教え 第八回』マイトラカニヤカ—母親を足蹴にした青年—」、『護国寺』第五一号(護国寺、平成六(一九九四)年一月)、二〇五頁。
- (15) 〈追悼〉「辻村誠三教授の急逝を悼む」、『筑波大学新聞』第一四八号(平成六(一九九四)年四月八日)、三頁。
- (16) 〈布教〉「『釈尊の教え 第九回』アジャータシャトル—お釈迦様に象をけしかけた王様—」、『護国寺』第五一号、(護国寺、平成六(一九九四)年七月)、二〇五頁。
- (17) 〈布教〉「『釈尊の教え 第十回』ヒマラーヤ山中で教えを求めて—自分の身体を犠牲にした青年—」、『護国寺』第五二号(護国寺、平成七(一九九五)年一月)、二〇五頁。
- (18) 〈学界報告レジュメ〉「チベット学の現況について」、『東方学』(東方学会、平成十(一九九八)年十一月三〇日)、一二頁。
- (19) 「文学部・人文学部で人間を考える」(インタビュー記事)、『私大蛍雪』第四二号、(平成十一(一九九九)年四月)、六〇七頁。

- (20) 〈追悼〉「恩師中村元先生」、『東方学』第九九号、(東方学会、平成十二(二〇〇〇)年一月三十一日)、二〇〇〇～二〇〇四頁。
- (21) 「弔辞(門弟代表)」、『東方』第十五号(中村元博士追悼号)、(東方研究会、平成十二(二〇〇〇)年九月十八日)、一六六～一八八頁。
- (22) 「東洋大学東洋学研究所―「東洋」の名を冠した研究所―」、(紹介・東洋大学附置研究所(1))、『TOYO UNIVERSITY (東洋大学校友会報)』二〇六号(平成十三(二〇〇一)年二月一日)、一三頁。
- (23) 「チベットの死者の書」からのメッセージ」、(東洋大学東洋学研究所事業報告)『東洋学研究』第三八号、(東洋大学東洋学研究所、平成十三(二〇〇一)年三月三十日)、一三九～一四〇頁。
- (24) 「インド哲学・仏教学・チベット密教」、『私大蛍雪』第六二号、(平成十三(二〇〇一)年四月十七日、旺文社)、一一一～一三三頁。
- (25) 「到れるものよ 到り着きたるものよ やとりよ (真理のいんげん)」、『Satya』第四二二号(二〇〇一年春季号)、(東洋大学井上円了記念学術センター、平成十三(二〇〇一)年四月二十日)、一八～一九頁。
- (26) 「哲学とは難しい学問ではなく、モノの見方や人の生き方を考える学問」、『二〇〇二栄冠めがけのSPECIAL 人文科学系学部特集号』(河合塾全国進学情報センター、平成十四(二〇〇二)年二月十四日刊)七五頁。
- (27) 「東洋学研究所の将来に関わる本年度の経過について」、『東洋学研究』第三九号(東洋大学東洋学研究所、平成十四(二〇〇二)年三月三十一日刊)、一～五頁。
- (28) 「東洋大学図書館で河口慧海師と出逢う」、『コスモス』(東洋大学図書館公報誌 No.147、平成十八(二〇〇六)年四月)、六～七頁。

研究室報告

① 本年度をもって川崎信定教授が停年退職されることとなり、一月十九日に「最終講義」と「囲む会」を開催した。満場のスカイホールでの講義は、本号の巻頭に掲載されている。「囲む会」にも先生の受業生、本学並びに他大学の先生方ははじめとする、多くの有縁の方々のご参加を得ることができた。

② 本年度より白山一貫教育がスタートし、文学部の教育・研究はすべて新築の六号館で実施されている。四階にある学科の共同研究室には、学生の自習スペースが広く確保されており、教育・研究の両面での便宜は極めて大きい。

③ 本年度の新入生歓迎行事として、「日帰り研修旅行」を行った。臨濟宗円覚寺派本山である鎌倉円覚寺の御協力を得て、禅堂において坐禅を実修し、管長猥下から法話を頂くという機会を持つことができた。新入生には大いに好評を博し、学生相互あるいは教員との交流を深めることができたと言えるだろう。円覚寺ならびに関係各位には厚く御礼申し上げます。

④ 本年度も大学院の研究発表会を前期（六月二九日）と後期（十二月十五日）に開催した。

⑤ 本年度のティーチング・アシスタントは、昨年度より継続の大学院後期課程の井野尚紀君の他、同じく後期課程の満達

君、林香奈さんを加えた三人が担当した。

⑥ 本年度の卒業論文・制作の提出者は、Ⅰ部が二十五名、Ⅱ部が十七名であり、大学院の修士論文提出者は六名であった。本年度の優秀論文に対する褒賞は以下の通りである。田村芳朗奨学金賞受賞者―プラチャップン（Ⅰ部）、杉山沙代子（Ⅱ部）、戸次顕彰（大学院）、勸学奨学金受賞者―甘利恭子（Ⅰ部）、和田睦美（Ⅱ部）、学友会学生研究奨励基金受賞者―益子美咲（Ⅰ部）、仙仁晶（Ⅱ部）、櫻井宣明（大学院）。

平成十七年度業績（平成十七年一月～十二月）

川崎信定

〈著訳書（共著）〉

『インド哲学・仏教学への誘い』（菅沼晃博士古稀記念論文集
刊行会〔伊吹敦、川崎信定、竹村牧男、沼田一郎、橋本泰元、
森章司、渡辺章悟〕編、大東出版社、二〇〇五年三月十日刊）
総頁三二七頁。

〈論文〉

- (1) 「チベット仏教」、『インド哲学・仏教学への誘い』（菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会〔伊吹敦、川崎信定、竹村牧男、沼田一郎、橋本泰元、森章司、渡辺章悟〕編、大東出版社、二〇〇五年三月十日刊）一八二～一九〇頁。
- (2) 「チベット訳大藏経」、『インド哲学・仏教学への誘い』（菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会〔伊吹敦、川崎信定、竹村牧男、沼田一郎、橋本泰元、森章司、渡辺章悟〕編、大東出版社、二〇〇五年三月十日刊）、二八六～二九二頁。
- (3) 「チベット語」、『インド哲学・仏教学への誘い』（菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会〔伊吹敦、川崎信定、竹村牧男、沼田一郎、橋本泰元、森章司、渡辺章悟〕編、大東出版社、二〇〇五年三月十日刊）、三一～三二七頁。
- (4) 「比較思想——はじめての人のための中村学入門——」、

〔KAWADE道の手帖〕『中村元・仏教の教え 人生の知恵』

（河出書房新社、二〇〇五年九月三十日刊）八六～九二頁。

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本宗教学会理事／日本西蔵学会委員／仏教思想学会理事／
比較思想学会評議員／日本印度学仏教学会評議員／東方学会
評議員

〈調査活動〉

日本私立学校振興・共済事業団平成十六年度学術研究振興資金に係る研究分担者…「日本における死への準備教育——死の実存的把握をめざして——」（研究代表者 高城功夫…分担者課題…「仏教にみる死生観」）

〈教育活動〉

学内担当科目

学部 「宗教学概論」（白山、1部・2部乗り入れ）

「仏教思想論」（白山、1部・2部乗り入れ）

「チベット文献講読」（白山、1部・2部乗り入れ）

「インド哲学・仏教学演習」（白山、1部・2部乗り入れ）

り入れ）

「チベットの死者の書から現代へのメッセージ」

（「仏教と社会」オムニバス担当）

キャンパス共通オムニバス講義…「学問の薦め」

（二〇〇五年十二月一日）担当…「古きを尋ねて、

新しきを拓く―円了先生の東洋学―

大学院 「仏教学演習」・「仏教学研究指導」(前期)

「仏教学特殊研究Ⅰ」・「仏教学研究指導」(後期)

学外担当科目

「チベット語仏典講読」 東方学院、財団法人東方研究会

「MD仏教学特論A(仏教哲学)(一切智の研究)」

大正大学大学院

〈社会活動〉

団体役員等

財団法人仏教学術振興会評議員／財団法人東方研究会理事

／財団法人仏教交流センター評議員／東京大学仏教青年会

評議員／真言宗豊山派教学審議会委員／東洋学報(東洋文

庫)編集委員／財団法人東洋文庫兼任研究員

学術講演／一般講演／講座等

(1)「釈尊のおしえ」、阿佐ヶ谷世尊院涅槃会講演会、

二〇〇五年三月十五日。主催 真言宗豊山派世尊院。

(2)「チベットの死者の書」と日本の四十九日中陰回向、

(二〇〇五年十月八日)、東洋大学東洋学研究所研究プロ

ジェクト公開講座講演(学術研究振興資金助成研究「日

本における死への準備教育―死の実存的把握をめざし

て―」代表者高城功夫研究員)

(3)「日本仏教近代化と学祖井上円了先生の東洋図書館構想

―挫折とその超克―、第十回仏教系大学図書館協会研

修会講演(平成十七年十一月十日) 東洋大学付属図書館

主催。

大学・学部管理・運営

東洋学研究所員／学術研究センター研究助成審議会委員
(平成十四年四月一日より)／助井上円了記念学術研究セ

ンター運営委員(平成十四年四月一日より)

森 章司

〈論文〉

「死後・輪廻はあるか―無記「十二縁起」無我の再考―」

(单著『東洋学論叢』第三十号、東洋大学文学部、平成十七

年三月、一〇三頁)

「初期仏教」「パトリ大藏経」(『インド哲学仏教学への誘い』

大東出版社、平成十七年三月、一〇六―一〇七頁、二八三―

二八五頁)

「Mahāpāpātī Gotamīの生涯と比丘尼の制について」(本澤

綱夫と共著『原始仏教聖典資料による釈尊伝の研究(十)』

中央学術研究所、平成十七年四月、一〇七頁)

「僧団の生活と戒律」(单著『大法輪』七十二卷四号、大法輪

閣、平成十七年四月、九〇―九五頁)

「仏教教団はどのように形成されたか」(单著『心(日曜講演

集)』第二四集、武蔵野大学、平成十七年四月、七五―八九頁)

「阿難伝 試稿」(单著)『森ゼミ紀要 原始仏教研究』第十三号、東洋大学文学部インド哲学科森ゼミ 平成十七年四月、三三〇～三八頁)

Shakyamuni's Aim, as Revealed by Early Buddhist Scriptures (单著)Dharma World, 32. Kosei Publishing co. Sept/oct. 2005, pp.9-16)

「仏教の信仰と実践」(单著)『大法輪』七二卷十一号、大法輪閣、平成十七年十一月、八八～九三頁)

「仏教における生と死の意味——初期仏教を中心に」(单著)『真理と創造』第四十五号、中央学術研究所、平成十七年十一月、七六～八五頁)

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会理事／地域文化学会理事／日本仏教学会／日本宗教学会／仏教思想学会

〈教育活動〉

学内担当科目

学 部 仏教学概論(Ⅰ部／Ⅱ部)

インド哲学仏教学演習(Ⅰ部Ⅱ部乗り入れ)

アビダルマ哲学(Ⅱ部)

大学院 初期仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導(前期)

仏教学特殊研究Ⅰ・仏教学研究指導(後期)

学外担当科目

インド哲学仏教学・仏教学特殊講義(北海道大学文学部大学院共通科目、平成十七年度後期集中講義、平成十八年一月二十三～二十六日)

〈社会活動〉

団体役員等

庭野平和財団評議員／大法輪石原育英会評議員

学術講演／一般講演／講座等

研究発表「釈尊教団はどのように運営されていたか」(東洋大学東洋学研究所研究発表例会、平成十七年五月二十一日)

〈大学・学部管理・運営〉

東洋学研究所所長／教職運営委員会委員

竹村 牧男

〈著訳書〉

(单著)『正法眼蔵講義——現成公案・摩訶般若波羅蜜』、大法輪閣、二〇〇五年一月十日、三〇～一頁

(共編訳書)中村元監修、木村清孝・末木文美士・竹村牧男編訳『エリアーデ仏教事典』、法蔵館、二〇〇五年十月十五日

〈論文〉

「岡倉天心の美学と仏教」、『ワタリウム美術館の 岡倉天心・研究会』、右文書院、二〇〇五年二月十日、一四四～一六三頁。

「日本仏教——導入期から江戸時代まで」、『菅沼晃博士古希記

念論文集 インド哲学仏教学への誘い、大東出版社、二〇〇五年三月十日、二二五～二四三頁

「道元禅における禅的実存の理路」、『東洋学論叢』第三十号、二〇〇五年三月、三九～五六頁

「『事事無礙法界』と『場所』—『五教章』「十玄門」の理路を辿って」、西田哲学研究会編『場所』第四号、二〇〇五年四月一日、一～十五頁

『The Path to Peace as seen in Mahayana Buddhism』, DHARMA WORLD For Living Buddhism and Interfaith Dialogue, Vol.32, Sept./Oct. 2005, pp.17～22.

〈その他〉

「重々無尽のいのち—『華嚴五教章』を読む」、『大法輪』二〇〇五年八月号より、毎月連載

「現代において〈仏教〉は可能か」、『春秋』、二〇〇五年八月号、一～四頁

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会理事／日本宗教学会理事／比較思想学会理事／仏教思想学会理事その他

学会における研究発表

“On the Significance of the Figure of Buddha in Buddhism”
Organized Panel: The Personal and the Impersonal in
the Absolute, XIXth World Congress of the International

Association for the History of Religions (AHR) , 25 March, Takanawa Prince Hotel, Minato-ku, Tokyo.

「仏教における仏の意義について」パネル「絶対者における人格性と非人格性」の四人のパネリストの一人として発表、第十九回国際宗教学史会議世界大会、三月二十五日、高輪プリンスホテル、東京都港区。

「仏教における絶対者の人格性と非人格性をめぐって」、第二十四回東西宗教学交流学会、二〇〇五年七月二十二日、京都パレスサイドホテル

〈調査活動〉

特別研究・特定課題〈共生学〉の構築の研究代表者として、同プロジェクトの運営に努め、十月末には京都大学大学院人間・環境学研究科のカール・ベッカー教授を訪問して、意見交換等を行なった。

〈教育活動〉

学内担当科目

学部 日本仏教史

仏典の思想と文化（1部・春学期）、

インド哲学仏教学研究法（2部・秋学期）

インド哲学仏教学演習（1部）、同（2部）

大学院 日本仏教研究・仏教学研究指導（前期課程）

仏教学特殊研究・仏教学研究指導（後期課程）

〈社会活動〉

学術講演／一般講演／講座等

ワタリウム美術館「座禅 哲学講座」、「禪の哲学」、二〇〇五年四月十七日、於・ワタリウム美術館、東京都渋谷区神宮前

第五十六回金沢大学暁烏記念式・記念講演（兼「市民大学院」開講記念講演）、「自由の精神―西田幾多郎と鈴木大拙に学ぶ」、二〇〇五年四月二十九日、於・金沢大学サテライトプラザ（金沢市西町）

「華嚴思想に学ぶ―「共生」への道を尋ねて」、在家仏教協会、二〇〇五年五月二十八日、大手町ビル五階

「日本人の宗教について」、第五十四回つくば人間学講座、つくば市、つくば人間学講座実行委員会主催、二〇〇五年十一月十九日、つくばインフォメーションセンター大会議室、（つくば市吾妻 つくばセンタービル内）

〈大学・学部の管理・運営〉

学術研究推進センター副センター長／大学院仏教学専攻主任

宮本久義

〈著書〉

『ヒンドゥー教の事典』（共著、東京堂出版、平成十七年十一月十日、菊版、一五〇二、二三三～二四二、二五一～二六八、三〇一～三〇四頁）

〈論 文〉

「建築書『マンジュシュリー・ヴァーストゥヴィディヤ・シヤーストラ (Manjushri Yastuvidyasastra)』の設計法則―スリランカ仏教寺院建築の設計法則 その2」（共著、「建築史学」第四十四号、平成十七年三月三十一日、A4版、三九～七六頁、（全頁共著）

〈その他〉

「現代インドの政治と宗教」、「インドの神話と文学」（単著、「菅沼晃博士古稀記念論文集・インド哲学仏教学への誘い」大東出版社、平成十七年三月十日、六三～七五、八七～九七頁）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本南アジア学会／日本印度学仏教学会／日本佛教学会／

建築史学会／早稲田大学東洋哲学会

学会における研究発表

「解脱とヒンドゥー聖地」（二〇〇五年度日本佛教学会學術大会、平成十七年九月四日、駒澤大学）

〈調査活動〉

「多言語社会における文学の歴史的展開と現在―インド文学を事例として」（平成十七年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）、研究協力者、研究代表者・水野善文）

「インドネシアにおけるヒンドゥー遺跡調査」（平成十七年七月二十四日～三十一日）

《教育活動》

学内担当科目

学部 インド古典講読（1部）

インド古典哲学（パラモン教哲学）（1部）

インド文化論Ⅱ（1部）

インド現代思想（2部）

インド哲学仏教学演習

大学院 サンスタクリット文献研究Ⅰ・インド哲学研究指導

Ⅰ（前期）

インド哲学特殊研究Ⅰ：インド哲学研究指導Ⅰ（後期）

学外担当科目

インド哲学仏教学特殊講義（東京大学文学部、夏学期）

インド思想史（早稲田大学文学部、通年）

総合講座「東洋における死の思想」中、「ヒンドゥー教における輪廻と解脱一、二」を担当（早稲田大学文学部、平成十七年四月二十三日・五月七日）

総合講座「東洋医学の人間科学」中、「アーユルヴェーダ」、

「ヨーガ」を担当（早稲田大学人間科学部、平成十七年

十月十四日・二十八日）

《社会活動》

講演「多民族・多言語・多宗教の国インド―異文化理解の方法を探る」（大東文化大学、平成十七年十一月二十五日）

《大学・学部の管理・運営》

東洋学研究所研究員〈学生生活委員〉図書選定係、〈井上円了の教育理念〉読後感想文コンクール審査委員

渡辺章悟

〔著訳書〕

『金剛般若経の研究』学位乙論文・博士（文学）論文、

二〇〇五年三月、A4版、四五五頁

《論 文》

「大乘仏教」（単著）『インド哲学仏教学への誘い』菅沼晃

博士古稀記念論文集）大東出版、二〇〇五年三月、A5

版、一二九―一四二頁）

「仏典はどのように漢訳されたのか―笈多訳『金剛能斷般若波羅蜜経』を巡って」（単著）『東洋学論叢』第三〇号、〈東

洋大学文学部紀要』インド哲学科篇、第五八集）二〇〇五

年三月、A5版、二四―四四頁）

「最終解脱へ向かう三昧―『大般若波羅蜜多経』における

金剛輸定―」（単著、『印度哲学仏教学』第二十号、北海道

印度哲学仏教学会、二〇〇五年十月、A5版、三八―

五七頁）

『Vaiṣṇavasādhīの考察』（単著）『印度学仏教学研究』54―1、日本印度学仏教学会、二〇〇五年十二月、A5

版、三四九―三五七頁）

〈その他〉

「三枝仏教学と私—中観から般若へ—」（单著、『三枝充惠著作集』〈仏教の宗教観・人間観〉第六卷、月報七、法蔵館、二〇〇五年三月、A5版、三〜四頁）

「写経の起こりと歴史」（单著、『大法輪』六月号、大法輪閣、二〇〇五年六月、A5版一二二〜一二五頁）

「菩薩とは何か」「菩薩の六つの実践」「仏のからだ」（单著、『大法輪』十一月号、大法輪閣、二〇〇五年十一月、A5版、九八〜一〇一頁、一〇四〜一〇五頁）

「書評・武田浩学『大智度論の研究』（单著、中外日報二〇〇五年十二月六日火曜日、第六面）

「維摩経・勝鬘経講義全 解説」（单著、『境野黄洋著作集』第六卷、うしお書店、二〇〇五年十二月、A5版）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本印度学仏教学会幹事・評議員／日本仏教学会／日本宗教学会／仏教思想学会／日本西蔵学会／比

較思想学会／北海道印度哲学仏教学会／国際仏教学会

(IABS)

学会における研究発表

「Varopamsandhiの考察」（日本印度学仏教学会第五十六回学術大会、平成十七年七月二十九日、四天王寺国際仏教大学）

〈調査活動〉

「バンコク・タンマカライ仏教寺院（World Dharmakaya Center）視察、及びロンドン大学でのIABS第十五回Conference（国際仏教学会学術大会）の参加」（平成十七年度東洋大学海外研究費による研究、平成十七年八月二十六日〜九月五日）

「日本仏教にみる葬制（冥界信仰）」（平成十七年度科学研究費補助金「基盤研究（C）（2）」による研究「葬制・墓制にみる日本人の死生観」研究分担者〈研究代表者・高城功夫〉生駒山系の十三仏遺跡の調査、平成十七年十二月二十三日〜二十六日）

「金剛般若経の研究」平成十七年度科学研究費補助金「基盤研究（C）（2）」による研究〈研究代表者・渡辺章悟〉

〈教育活動〉

学部 インド哲学仏教学演習

仏教思想論Ⅰ

インド仏教史（Ⅰ部／Ⅱ部）

総合科目A、B、F（東洋大学校友会寄附講座）

総合科目D「社会に生きる知恵」前期一回担当

「仏教と社会」二回担当

大学院 サンスクリット文献研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅲ（前期）
インド哲学特殊研究Ⅲ・インド哲学研究指導Ⅲ（後期）

《社会活動》

団体役員等

財団法人仏教伝道協会英訳大藏經編集委員会委員／同協会

財団法人仏教聖典編集委員会委員／財団法人東方研究会研究員／

學術講演／一般講演／講座等

「井上円了の仏教」〔浄土真宗大谷派真浄寺定例法話会、平

成十七年十一月十六日、文京区向丘・真浄寺〕

《大学・学部管理・運営》

インド哲学科第1部主任／大学協議会委員／文学部内資格審

査委員会委員／文学部内外国語委員会委員／東洋学研究所研

究員

橋本泰元

《著書》

『ヒンドゥー教の事典』（東京堂出版、二〇〇五年十一月、

執筆部分一〜一四頁、一〇七〜一一三頁、一二三〜一七八

頁、一九五〜二一〇頁、二二六〜二三五頁、二八三〜二九二

頁、宮本久義・山下博司氏と共著）

《翻訳》

「カビール『ビージャク』和訳余滴（三）——カヘラー——」（『東

洋学論叢』第三十号（東洋大学文学部紀要第五十八集）A

5判八四〜一〇三頁、平成十七年三月）

「タリスタン・ブイ著『ナータ派ヨーガ行者と諸ウパニシ

ヤッド』——抄訳（三）——」（『東洋学研究』第四十二号）A
4判七九〜一〇八、平成十七年三月）

《その他》

「ヒンドゥー教」〔菅沼晃博士古希記念論文集 インド哲学

仏教学への誘い、大東出版社、二〇〇五年三月、四六〜五六頁〕

「ヒンディー語」〔菅沼晃博士古希記念論文集 インド哲学

仏教学への誘い、大東出版社、二〇〇五年三月、三一八〜

三二二頁）

《学会活動》

所屬学会ならびに役職

日本印度学佛教学会評議員／日本宗教学会／日本南アジア

学会／日本佛教学会

学会における研究発表

日本南アジア学会第十八回大会（十月二日 龍谷大学）（分

科会Ⅲ 南アジア研究へ…文学からの問いかけ）において

中世文学研究の立場からのコメンテーター

《教育活動》

学内担当科目

学部 インド宗教史A・B（I部／II部）

インド哲学仏教学演習（乗入れ）

ヒンディー文献購読（I部）

仏教と社会（乗入れ）（コディネーター）

総合VVA「アジアにおける近代化と大学の成立」を担当

大学院 インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅲ（前期）

インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ（後期）

学外担当科目

ヒンディー語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（大正大学）

〈大学・学部管理・運営〉

インド哲学科第2部主任／文学部内資格審査委員会委員／東洋学研究所所員

伊吹 敦

〈翻訳〉

『中国の宗教』（共訳、ジョセフ・A・アドラー著、春秋社、全二六五頁、二〇〇五（平成十七）年六月）

〈論文〉

「『統高僧伝』に見る達摩系習禅者の諸相―道宣の認識の変化が意味するもの」（『東洋大学文学部紀要』五十八（インド哲学科篇三十）、後四五―七五頁、二〇〇五（平成十七）年三月）

「『禅』の起源」（『駒澤大学大学院仏教学研究会年報』三十八、一―二十一頁、二〇〇五（平成十七）年五月）

「初期の禪宗における経典注釈―『金剛藏菩薩注』に関する研究の整理」（『福井文雅博士古稀記念論集』『アジア文化の思想と儀礼』、六四七―六六二頁、春秋社、二〇〇五（平成十七）年六月）

「初期註釋文獻に見る北宗禪の思想と實踐」（『東隆眞博士古稀記念論集』『禪の眞理と實踐』、四三九―四五七頁、春秋社、二〇〇五（平成十七）年十一月）

〈その他〉

「荷沢神会の影響 要説・中国禅思想史4」（『禅文化』一九五、八一―八九頁、二〇〇五（平成十七）年一月）
「神会から馬祖へ 要説・中国禅思想史5」（『禅文化』一九六、八一―八九頁、二〇〇五（平成十七）年四月）

「馬祖禅の成立と宗密の批判 要説・中国禅思想史6」（『禅文化』一九七、六三―七二頁、二〇〇五（平成十七）年七月）
「馬祖禅成立の史的意義 要説・中国禅思想史7」（『禅文化』一九八、八九―九八頁、二〇〇五（平成十七）年十月）

〈学会活動〉

所屬学会ならびに役職
日本印度学仏教学会／仏教思想学会幹事／早稲田大学東洋哲学会／日本仏教学会／財団法人東方学会
研究発表

「馬祖的思想与時代精神」（馬祖与中国禅宗文化學術研討会、平成十七年八月二十七日、中国・四川省什邡市）

〈教育活動〉

学内担当科目

学部 中国仏教史（Ⅰ部／Ⅱ部）

仏典の思想と文化ⅡA（Ⅱ部）

インド哲学仏教学研究法B（I部）

インド哲学仏教学演習（乗入れ）

東洋思想（II部）

大学院 中国仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅳ（前期）

学外担当科目

学部 思想・宗教系演習三九（早稲田大学第二文学部）

〈社会活動〉

団体役員等

財団法人東方研究会兼任研究員

講演

「禪の起源について」（駒澤大学大学院仏教学研究会二〇〇

四年度公開講演会、平成十七年一月二十九日、駒澤大学中

央講堂）

〈大学・学部の管理・運営〉

文学部内カリキュラム委員会委員／文学部内入試委員会委員

／文学部内II部改革委員会委員／東洋学研究所編集委員

沼田一郎

〈論文〉

「Mansuṃyī王権論における第八、九章の意義（下）」（単著

『東洋大学文学部紀要』五十八（インド哲学科篇三十）、平成

十七年三月、七六～八三頁。）

「Yānyakyaṣmī第2章における司法主題の配置」（単著『印

度学仏教学研究』第五十三号第二卷平成十七年三月、六五～

七〇頁）

「ヴェーダ・ウパニシャッド」「法典類」（単著『インド哲学

仏教学への誘い』菅沼晃博士古稀記念論文集）大東出版、二

〇〇五年三月）

〈学会活動〉

所属学会ならびに役職

日本南アジア学会／日本印度学仏教学会／日本仏教学会／

北海道印度哲学仏教学会

学会における研究発表

「ダルマ文献における司法主題の名称とその内容」（北海道

印度哲学仏教学会第二十一回学術大会、平成十七年九月十

日、北海道武蔵女子短期大学）

〈教育活動〉

学内担当科目

学部 サンスクリット文献講読（I部）

インド哲学仏教学演習

インド文化論I

インド古典哲学（II部）

学外担当科目

宗教学（高千穂大学）

〈大学・学部の管理・運営〉

文学部内外国語委員会委員／文学部内予算委員会委員

平成十七年度演習ゼミ活動報告

沼田 一郎

インド哲学仏教学演習①

①テーマ 「インド古代社会資料の研究」

②メンバー 幹事・伊藤慶、(幹事を除く) 四年生七名、三年

生六名、二年生八名

③活動報告

今年度は文献操作の手法を垣間見ることが目的として、『実利論』と諸法典の比較対照作業をすることにした。法典類の司法篇は文献間で微妙な差異を示しているので、適切な素材になると考えたが、これはやはり原典資料に基づかなければ所期の結果を得るのは困難であった。しかし、サンスクリット原典に基づく厳密な検討は、人数的な制約もあって困難である。このような作業は前期でとりあえず打ち切り、後期はゼミ生の要望を考慮して、近代インドの教育問題を扱った英語論文の輪読に切り替えた。私自身の見通しの誤りによって生じた不手際であった。

四年生の卒業研究は、建築・音楽・舞踊・格闘技・古代社会・女性問題など、そのテーマは今年も多彩であったが、いずれも準備期間の不足が問題であった。夏休み前には大まかな構想がかたまっていることが望ましい。その発表の場として、夏休み

の合宿を充てることが慣例である。今年は千葉県鴨川にある本学のゼミナーハウスで行った。少ない参加者であったが、研究発表の他にもヨーガの実修や近隣の水族館の見学など、楽しい三日間であった。九月上旬の海辺は未だ充分暑く、自由時間には海に入って泳いだ者も数名あった。

宮本義久

インド哲学仏教学演習②

①テーマ 「インド思想研究」

②メンバー 幹事・伊原草太(幹事)、富井龍司(副幹事)、梶

新吾(記録係)、(幹事を除く) 四年生一名、三年生十七名、二年生九名

③活動報告

本年度は、サンスクリット原典の講読といくつかの班に分かれての研究発表という二本の柱を立ててゼミを行った。原典講読は、インド古典中もつとも有名な典籍であり、ヴェーダンタ学派の聖典の一つでもある『バガヴァッド・ギーター』を選び、それに関連するウパニシャッド聖典やヴェーダンタ学派の典籍を適宜参照する形で行った。研究発表は、哲学班、神話班、文学班、文化班、仏教班のうち「グループが研究発表を行い、それについて討論する形で進めたが、人数の関係で途中から神話班をA班とB班に分け、仏教班は他班に吸収してもらった。

本年度の本ゼミは実質的に三年生と二年生から成り、卒論の

中間発表や指導がないので、各班が三回ずつ発表する機会が持てた。回を重ねるにつれて、内容が少しずつ充実していくのが確認できた。

夏期の研修合宿は九月六日から二泊三日、鴨川セミナーハウスで行った。日程に余裕があったので、二日目の午後は自由時間とし、近くのテーマパークなどを訪れて楽しい時を過ごすことができた。

先にも書いたが、三年生、二年生中心のゼミだったので、サンスクリット読解の力がまだ弱く、当初予定していた分の講読があまり進まなかったが、次年度は講読と研究発表ともにさらに充実したものになるよう指導していきたいと思う。

橋本泰元

インド哲学仏教学演習③

- ① テーマ 「中世ヒンドゥー教思想研究」
- ② メンバー 前期幹事・近澤彰裕(四年生)、後期幹事：川村知弘(三年生)、(幹事を除く) 四年生十二名、三年生六名、二年生十一名

③ 活動報告

学年はじめは、担当者がゼミテーマであるバクティ(信愛)思想の概説をし、『バーガヴァタ・プラーナ』『ラーサの章』の輪読を開始した。それと平行して、女神信仰の古典的研究 書David Kinsley, Hindu Goddesses, Delhi: Motilal

Banarsidas, 1987)のDurgaとKaliの章の分担和訳の作業を開始した。しかしながら、その後、ゼミ生の発案で、バクティおよび女神信仰に関する研究テーマを五つ決めてグループ研究および発表の形式に変更した。各グループが上記テーマに関連する自由テーマを選定し、各授業時間一グループ発表してもらった。各グループはテーマを鋭意調査しレジュメを作成し発表していたが、原典解説および英文資料の正確な読解の訓練にはなりにくかった。

九月十四日から二泊三日の日程で千葉県の鴨川セミナーハウスで、各グループ発表を続行し、併せて四年生の卒業論文・制作の中間発表を行ってもらった。発表者と担当教員との議論となるのが常態であったが、今年度は他のゼミ生からの質問も出て、意外に活発なゼミ合宿となった。また担当教員が主査を務める大学院生二名もふだんの研究成果を発表してくれて、学部学生に大いに刺激になったと思われる。

今年度から第2部二年次のゼミが必修となったが、二ゼミのうちインド学分野を担当した。そのゼミ生のうち五人がこの合宿に参加し、同じようにグループ研究の発表を行った。

渡辺章悟

インド哲学仏教学演習④

- ① テーマ インド大乘仏教の研究
- ② メンバー 幹事：前期・中村紗綾香、後期：石川友香里、(幹

事を除く) 四年生七名、三年生六名、二年生八名、
大学院生五名

③ 活動報告

今年度は「インド大乘仏教の研究」というテーマのもとに、
学生が主役となって研究発表し、質問・意見を述べ合って授業
を展開してきた。学生の意見が行き詰まると担当教員がフォロ
ーし、発表内容に対する理解を深めるようにした。

毎年、共通テーマと個人テーマを立てて研究しているが、今
年度は学生数が増えたこともあり、共通テーマをグループ研究
に変更して合宿中に発表する形態をとった。個人テーマでは自
分が追求したい分野を自由に調べて発表し、グループ研究では
一つの大きなテーマ、あるいは文献などに対して、皆で工夫し
て取り組んだ。

夏季には八月八日～十日まで、群馬県の仁叟禅寺でゼミ合宿、
学部生と大学院生合計十六名が参加した。早朝の坐禅と作務、
日中は研究発表、夜は懇親会と充実した日程であった。偶然実
施されていた寺の仏像調査・復元の現場で学生が積極的に話を
うかがったりして、貴重な体験を持つことができたと思う。

渡辺ゼミでは学生の自己責任において研究し、熟考し、レジ
ュメを用意して、限られた時間の中で発表をし、質疑応答の力
を身につけることを目指している。このゼミ活動を通して社会
においても重要な、自己表現の方法を養わせようと指導したつ
もりであるが、学生もそういった実感を多少なりとも身につけ

てくれたのではないかと期待している。(ゼミ長 石川友香里
との共同執筆)

森 章司

インド哲学仏教学演習⑤

① テーマ 「原始仏教研究」

② メンバー 幹事・仙仁晶(前期)、橋爪浩昭(後期)、(幹事
を除く) 四年生五名、三年生四名、一年生三名、
大学院生六名

③ 活動報告

例年通り、年度初めの五回は大学院生の協力も得ながら、原
始仏教概説、原始仏教資料概説、卒業論文(制作)の書き方、
電子資料の使い方などを講義し、図書館見学を行った。その後
研究活動に入った。研究は共同研究と個人研究の二本立てで進
めた。

共同研究の今年度のテーマは学生と相談したうえで、当初は
「靈魂(あるいはこれに相当するもの)はあるか。ないとする
ば人はどのように輪廻するか」と設定した。しかし議論を進め
ているうちに、その前提としての死後・輪廻はあるかというこ
とも改めて議論する必要性が生じてきて、その後の研究はむしろ
「死後・輪廻・靈魂はあるか」がテーマになった。

そこでまず、原始仏教領域においてこれらのテーマが論じら
れている著書・論文にはどのようなものがあるかを調査したう

えて、その中から井上円了『靈魂不滅論』、中村元『原始仏教の思想』や和辻哲郎『原始仏教に於ける業と輪廻』、雲井昭善『阿含における輪廻の問題』など十点の著書・論文を選び、それらをゼミ員が分担して、それらの論旨、どのようなことを論証するためにどのような経論が使われているかなどを報告しあい、次にいちいちそのものと典籍にあたつて、それぞれの著書論文の論述の妥当性などを検討した。またその過程において、DN₂₃ Piyasuttanta、「長阿含経」七『弊宿経』には、どのように靈魂が説かれているのかを正確に理解する必要性が生じ、これを全員が読んでその意味を検討した。その発表資料として、私を含めた個々人の死後観・靈魂観のアンケート調査を行った。

この議論における結論をここに簡単にまとめることはできないが、この研究を通して、学生諸君は学者の書く論文が必ずしも厳密な検討を加えずに、自分の論旨に合わせるように適当に経論を使っていることが多いことがわかつたと思う。また Atman というものを一義的に解釈してはいけないということも痛感することになった。これもまたこの研究における大きな成果の一つと言えるであろう。そこで Atman 研究が次年度の研究テーマの候補として上がっている。

個人研究は四年生の卒業論文（制作）テーマに関する研究、三年生以下は卒業論文（制作）を視野に入れた自由研究とした。原則として月の第一週はこの指導にあて、その発表は九月十六日から十八日までの二泊三日のゼミ合宿において行つ

た。これらにはゼミの単位を必要としないが、卒業論文を残している者も出席させている。合宿にはゼミに出席している大学院生はもちろん、二名の卒業生も参加してくれ、充実した合宿となった。その成果は、提出された卒業論文や修士論文などで証明されている。また、雨安居期間のために住所を離れられないタイ留学僧については、夏休み後の平常授業時間中に研究発表を行った。個人研究のうち卒業論文（制作）についてはその要旨を、優秀論文についてはその全文を『ゼミ紀要』に掲載する。

ゼミのホームページ (<http://www2.kyoto.ac.jp/~noimori/>) のアクセスは、この一年間で約三、五〇〇件で、開設以来の総件数は一二、二〇〇件となっている。掲示板にも書き込みが少なくなっており、少々停滞気味である。

伊吹 敦

インド哲学仏教演習⑥

- ① テーマ 「禅思想史研究」
- ② メンバー 亀山征史（幹事）他、四年生九名、三年生九名、二年生一名

③ 活動報告

本ゼミは、中国仏教の中でも、最も中国的な性格を多分に持つ「禅」を中心に、その思想の特質や成立、変化をたどつてゆくことを目的とするものである。

学生との話し合いの結果、本年度も、岩波文庫本をテキストとして『臨濟録』を講読した。テキストには訳文が付されているものの、唐代の口語を含む上に、通常の言葉では表現しがたいものとされる「悟り」を主題とするだけに、理解は容易ではなく、進捗状況は必ずしもよくはなかった。しかし、慌だし現代に生きる学生にとって、短いテキストの意味をじっくりと考えるという経験は稀であり、それなりの意味があったと考えられている。

授業の運営は、テキストをいくつかに分割して、それぞれを二三人に担当させ、各人にレジュメを作製してきてもらい、担当者を中心に全体で討議するという方法を取った。この方法は色々な点で非常に有効であるので、次年次以降も継続して行きたいと考えている。担当者の熱意にかなりの差があるということは、ある程度止むを得ないことであるにしても、特に下級生の間で授業中の自発的な発言が必ずしも多くないという点については、まだ改善の余地が残されているように思われる。

なお、ゼミ活動のもう一つの柱である卒論指導については、授業中での研究成果の発表はなるべく行わず、研究室での個別指導で対応しようと努めた。授業時間内での卒論指導には余りに制約が多いし、そちらに時間を割かれてテキストの読解が進まなくなることを恐れたためである。この方法は熱心な学生には非常に有効であった反面、ほとんど指導を受けようとせず、しかも粗忽な論文を提出したものがいたという現実もあり、こ

の点でも改善の余地があるように思う。

課外活動としては、一年を通して飲み会を何回か行い、また、夏季休暇中には小口沢セミナーハウスに宿泊する小旅行を行ない、ワイナリーを尋ねるなどして楽しい時間を過ごした。

竹村牧男

インド哲学仏教学演習⑦

① テーマ 「日本仏教における諸仏・諸尊信仰の理論と形態」
(1部および2部3年以上)

② メンバー 幹事・ゼミ長・畠山隆弘、副ゼミ長・小池一慶、(幹事を除く)四年生十名、三年生四名、一年生十六名

③ 活動報告

当ゼミでは、昨年度に引き続き、阿弥陀仏や薬師如来、観音菩薩や不動明王等、日本人に親しまれている諸仏・諸尊の信仰について、その信仰の根拠となる文献、信仰対象となる本尊の尊形の図像や儀礼の様式、民衆の信仰の実態等について、各自調査・研究し、発表する仕方で運営した。各自、一人で、あるいはグループで、春・秋一回ずつくらいの発表を行なった。従来、二年生は、朝霞で独自のゼミがあり、文献講読などをしてきたが、本年度からは新カリキュラムにのっとり、二年生もこのゼミに参加して勉強していくことになった。さすがに二年生にとっては、当初、どのように取り組めばよいかわからない感じであったが、秋学期に入ると、ゼミでしなければならぬこ

とをよく了解してきたと思われる。このテーマは、親しみやすいものの、研究の方法がむずかしく、全員がなかなかじっくり取り組むことができなかったようであるが、多彩な信仰形態が発表され、我々自身の宗教意識のありかたについて、顧みるきっかけにはなったと思う。今後、このゼミでの研究を基に、さらに自己自身の宗教心や仏教への思いを掘り下げていってほしいと思う。ゼミの授業以外の活動として、新歓コンパのほか、夏に鴨川のセミナーハウスで、二泊三日のゼミへ台宿を行なった。しかし、特に二年生の参加が少なく、残念であった。本年度は、木曜日七限にも、授業があり、コンパに私が参加することがむずかしく、コンパ活動が低調になったことも残念であった。

川崎信定

インド哲学仏教学演⑧

① テーマ 「中観・唯識思想基礎的原典の講読研究——『唯識二十論』」

② メンバー 幹事・笹森花菜、四年生1部2名、四年生2部2名、大学院生3名

③ 活動報告

インド大乘仏教の重要教理の一つである唯識思想の基礎的原典の講読を通してテキスト批判・文献取り扱いの基本を養成し、今後の専門的文献研究・論文執筆のための基盤を作ることを目的としたセミナー。今まで、数年に亘って、四世紀ごろにヴ

ァスバンドウ（世親）が著した唯識思想の代表的な論書・二十の韻文からなる『唯識二十論』を取り上げ、サンスクリット原文を担当する輪番で講読研究を行なってきた。ただ、今学年は、指導教員川崎の東洋大学における定年申し合わせによる退任の直前年になるため、新たなゼミ参加者は募集しないで、卒業論文作成の個人指導中心に切り替えた。夏休み前には、卒論作成予定学生の全員に論文テーマの決定と論文作成の要領指導を緻密に行ない、学生各自にレジュメの提出と経過発表を課した。まず各自が選んだ原典テキストを正確に読んで発表する。それに続いて、問題意識の絞り込みによる明確化への指導がなされ、それぞれの経過発表に基づいてクラス全員でディスカッションを行ない、問題点の指摘と対策の検討が論じられ、学生相互の論文執筆状況の確認と励まし合いが試みられた。学年後期には、事前アンケートメントによる、研究室での個人指導がなされた。

橋本泰元

インド哲学仏教学演習⑨

① テーマ 「インド思想研究入門」

② メンバー 幹事・竹田 学、第2部二年生十三名

③ 活動報告

このゼミは今年度から開講した第2部第二年次必修二ゼミのうちの一つである。

学年はじめには、第一部のゼミと合同の懇親会を開いた。はじめ頃の授業では、ゼミ生のインド学に関する関心を聞き、輪読用の共通のテキストを『バガヴァッド・ギーター』に決定し、サンスクリット語中級学習の初歩から授業を開始した。途中で、『バガヴァッド・ギーター』のいくつかの問題をテーマに選び、上村勝彦博士和訳をあらかじめ読んできてもらって、議論を行った。また、ゼミ生の自分自身の関心あるインド学に関するテーマを提出してもらい、論議を何回か行った。

九月十四日から二泊三日の日程で千葉県の鴨川セミナーハウスでのゼミ合宿では、ゼミ生の半数以上の参加を得て、第一部ゼミとの有意義な合宿ができた。

竹村牧男

インド哲学仏教学演習^⑩

①テーマ 「仏教思想の研究」

②メンバー 幹事・ゼミ長・天野幸生・天野まゆこ、(幹事を除く) 二年生二十四名

③活動報告

当ゼミは、2部二年生の必修のゼミで、インド哲学方面を橋本泰元先生が担当し、仏教方面を、私が担当した。全員で二十六名ほどおり、テーマごとに二名から三名のグループを組み、前期は、インド仏教を釈尊から大乘仏教まで、後期はインド密教から中国仏教を経て日本仏教の日連まで、主要なテーマ

のもとに発表をし、ディスカッションした。発表は、次第に充実してきて、期待以上の研究成果を示してくれた。このゼミによって、仏教全体を見渡し、かつ自分の関心のある仏教がどのような位置にあるのかについて、理解が深まったと思う。また、調査・研究の面白さについても、覚えたものと思われる。必修科目であるのに、ごく少数の学生に、ほとんど欠席した者がいたことは残念であった。授業以外の活動は、七限後のコンパがむずかしく、また第一部のゼミと合同の合宿も人数やテーマからいってむずかしく、特に行なわなかったが、今後、改善すべき課題となった。

平成十七年度開講科目

・従前の通年科目は一年生対象の場合 A (春) ・ B (秋) に分かれるが、担当者が同一の場合はその区別は省略して記した
 ・担当者に付したカッコ内の数字は、それぞれ部・部の区別を示す。カッコが付されていないものは、乗り入れ科目か部・部の担当者が同一であることを示す。

インド宗教史	橋本泰元	日本思想	三澤勝己
仏教学概論	森 章司	東洋思想	伊吹 敦
インド仏教史	渡辺章悟	哲学概論	渡辺郁子
中国仏教史	伊吹 敦	宗教社会学	川又俊則
日本仏教史	竹村牧男	イスラム教概説	後藤 明
サンスクリット文献講読	沼田一郎 (I)、渡辺郁子 (II)	キリスト教概説	田淵文男
インド古典講読	宮本久義 (I)、渡辺郁子 (II)	仏教漢文講読	橋川智昭
インド哲学仏教学研究法 A	渡辺章悟	チベット文献講読	川崎信定
インド哲学仏教学研究法 B	伊吹 敦	外国語文献講読	岩井昌悟
インド古典哲学	宮本久義 (I)、沼田一郎 (II)	ヒンディー文献講読	橋本泰元
仏教古典哲学	池田練太郎 (I)	パリ文献講読	石上和敬
アビダルマ哲学	森 章司 (II)	仏教梵語講読	岩井昌悟
インド文学	島田茂樹	インド文化論 I	沼田一郎
インド・仏教図像学	島田茂樹	インド文化論 II	石川 寛
		仏教思想論 I	渡辺章悟
		仏教思想論 II	川崎信定
		インド現代思想	宮本久義
		ヨーガとその思想	馬場裕之
		インド・仏教図像学 (インド・チベット密教図像学入門)	島田茂樹
		インド文学 (インド伝奇物語『屍鬼二十五話』講読)	島田茂樹
		仏教と社会 (専任教員と外部講師のリレー連続講義)	橋本泰元

宗教学概論

川崎信定

卒業論文(制作)

仏典の思想と文化ⅡA(禪の思想)

伊吹 敦

仏典の思想と文化ⅡB

(大学院)

(ブツダから歎異抄にいたる浄土教の展開)

本多静芳

博士前期課程

仏典の思想と文化ⅠA(密教経典に見られる思想と文化)

金本拓士

サンスクリット文献研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅰ

仏典の思想と文化ⅠB(華嚴経の思想と文化)

竹村牧男

(インド哲学体系の研究)

宮本久義

インド哲学仏教学演習①(インド古代社会資料の研究)

沼田一郎

サンスクリット文献研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ

渡辺章悟

インド哲学仏教学演習②(インド思想研究)

宮本久義

インド哲学研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ

橋本泰元

インド哲学仏教学演習③(中世ヒンドゥー教思想研究)

橋本泰元

初期仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ

森 章司

インド哲学仏教学演習④(インド大乘仏教の研究)

渡辺章悟

(律藏による釈尊教壇形成過程の研究)

池田練太郎

インド哲学仏教学演習⑤(原始仏教研究)

森 章司

大乘仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅱ

川崎信定

インド哲学仏教学演習⑥(禅思想研究)

伊吹 敦

大乘仏教研究Ⅲ(『瑜伽師地論』を読む)

横山紘一

インド哲学仏教学演習⑦

伊吹 敦

中国仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅳ(中国仏教研究)

伊吹 敦

(日本における諸仏諸尊信仰の形成と理論)

竹村牧男

日本仏教研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅲ

伊吹 敦

インド哲学仏教学演習⑧(大乘仏教のチベットにおける展開)

川崎信定

〔華嚴五教章〕「所詮差別章」講読

竹村牧男

インド哲学仏教学演習⑨(インド思想研究入門)

橋本泰元(Ⅱ)

博士後期課程

インド哲学仏教学演習⑩(仏教思想史を辿る)

橋本泰元(Ⅱ)

インド哲学特殊研究Ⅰ・インド哲学研究指導Ⅰ

宮本久義

インド哲学特殊研究Ⅱ(正統パラモン系統の思想研究)

竹村牧男(Ⅱ)

インド哲学特殊研究Ⅱ・インド哲学研究指導Ⅱ

橋本泰元

インド哲学特殊研究Ⅲ・インド哲学研究指導Ⅲ

(大乘仏教の起源)

渡辺章悟

平成十七年度卒業論文

仏教学特殊研究Ⅰ・仏教学研究指導Ⅰ(律蔵の比較研究)

森 章司

(Ⅰ部)

仏教学特殊研究Ⅱ・仏教学研究指導Ⅱ

(仏教と他派との思想交流)

川崎信定

今 かおり

クリシュナ像の変化と多様性
マナーサーラにおける建築物の戸の配置場所につ
いて

仏教学特殊研究Ⅳ・仏教学研究指導Ⅲ

(日本唯識思想研究)

竹村牧男

村上 舞

『観音信仰について』～語源・語義を中心に～

島山 隆弘

不動明王の信仰興教大師覺鑊の密淨融會思想の影
響

根本 明子

インドにおけるシェイクスピアの受容——「カタ
カリ・オセロウ」からみえるもの——

笹森 花菜

現代社会における魂と再考——『チベットの死者
の書』を通じて——

島崎 葵

インド世界と舞踊

田中 和希

『臨濟録』の思想

吉川 奏哉

八幡信仰～蒙古襲来と『八幡愚童訓』～

川原 良平

妙見菩薩の正体と日本における妙見信仰

辻 恵子

桓武天皇と仏教

甘利 恭子

医療の現場における仏教の可能性

大貫 香菜

『Sanskrit ke Car Adhyaya(文化の四章)』第四章九
節「宗教の生きた姿…パラマハンサ・ラーマクリ
シュナ」の翻訳

小倉 綾華 自己が経験する世界について

川尻 佳司 日蓮の法華経観

石川美紀子 図像から見る不動明王信仰

高野 慧 ジャータカ物語における印度社会の階級制度

北川 亘子 結婚を中心とした女性問題からの考察—

清水 啓 雑誌に見るインド女性の現実—“FEMINA”と“MANUSHI”から—

ブラチャッポン パリ文献によるVisakha Migaramataの研究

三澤 祐嗣 “マハーパラータの思想研究—サーンキヤ思想の

3要素と「モークシヤダルマ篇」の3要素比較—

益子 美咲 『バガヴァット・ギーター』におけるsanaの考察

滝沢 祐太 文字学におけるインド系文字の系譜化に関する一

元島 丈明 考察—アショーク・ブラーフミーから悉曇まで—

『ENCYCLOPEDIA OF Indian Temple Architecture』

—SOUTH INDIA・LOWER DRIVADADESA—1章

の翻訳

ブラバズワット パーリ語電子辞書

揚原 静香 仏教と女と比丘尼—仏教と女性軽視—

池田 ゆき Theragata, Therigataに見る比丘・比丘尼の修行と

〈II部〉

生活態度

杉山沙代子 ヴァイシェーシカ学派とその時間論についての一

考察

永井 一郎 ウパニシャッドの考察

鈴木 梨沙 パーリ法句経に見る心のあり方

倉島 直美 Dhanurveda 英日訳

張替 正人 沢庵著「不動智神妙録」剣と禪

櫻田 純 日本仏教の民衆化と葬式仏教化

内野 康昭 音とインドの思想

中村紗綾香 『中論』第十五章に見る無自性—無自性もまた仏

教といえるのか—

鈴木 雄 神仏分離—廃仏毀釈による仏教の行方—

和田 純羽 旅行日記

田代 道拡 血と殺戮の恐怖の女神研究

山本 敬子 葬儀の文化に関する一考察

林 彩 有事の巻について

仙仁 晶 ジャータカに見られる動物と動物観

和田 睦美 羽黒修験の成仏観

大学院修士論文

三上 哲 Nāṭyaśāstraにおける音楽理論の研究

馬場えつこ 『大日経』住心品における菩提心解釈

鈴木 勇

『瑜伽論』『菩薩地』所説の「非有非無の中道」説
における《事そのもの (Yathumatra)》の概念の研究

石井 照彦

羯磨の研究

戸次 顕彰

『四分律行事鈔』における道宣の戒律観の研究 —
付篇「篇聚名報篇の注釈ならびに現代語訳」—

櫻井 宣明

『入菩提行論』第8禪定章の慈悲観—自他転換に
よる慈悲の実践—

東洋學論叢 第31号

(東洋大學文學部紀要 インド哲学科篇 第59集)

平成十八年三月三十日 印刷

平成十八年三月三十日 発行 [非売品]

發行所 東洋大學文學部

東京都文京区白山五―二八―二〇

電話 インド哲学科〇三三九四五七三七

印刷音羽印刷株式会社

東京都新宿区山吹町十五番地

電話 〇三―三二六八一四四〇

BULLETIN OF ORIENTOLOGY

Bulletin of the Faculty of Letters

Toyo University

NO. 59

March, 2006

Series of

INDIAN PHILOSOPHY

XXXI

CONTENTS

- KAWASAKI, Shinjo : On the Buddha's Power
of Omniscience, Omnipotence, and Benevolence,
(Farewell Lecture, Toyo University, January 19, 2006) (23)
- TAKEMURA, Makio : Dependent Origination and Co-operative Living (Kyosei)
from the Viewpoint of Buddhist Thought (47)
- NUMATA, Ichiro : A Japanese Translation of the *Gaṅgottarikṣetra-māhātmyam* (130)
- IBUKI, Atsushi : The Chronology of Wōhyo's Works (150)
- HASHIMOTO, Taikgen : A Japanese Translation of Vasanta in the Kabīr's Bijak (164)
- WATANABE, Shogo : A Consideration of *Vajra* (180)
- MIYAMOTO, Hisayoshi : A Japanese Translation and Notes
of The *Vārāṇasī - māhātmya* in *Matsya-purāṇa*:
The Structure of Hindu Sacred Place *Vārāṇasī* (200)
-

Published by

TOYO UNIVERSITY

Hakusan, Bunkyo, Tokyo